

The Learner

Doshisha International Academy, Elementary School

January
ISSUE



January, 2021
Volume 109

Message from the Vice Head of Schools

同志社の根幹である良心と自由主義

～同志社の教育理念の原点を振り返り、これからの指針とする～

平素は同志社国際学院の教育活動に深いご理解とあたたかいご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。同志社国際学院創立10回目の新春を迎えました。2021年の年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げるとともに、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

さて、2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大という未曾有の恐怖と不安の中に始まりました。コロナ禍においては、外出自粛要請や学校の一斉休業、オンライン授業、各種体験学習や校外学習の取り止め等、これまでにない学校生活になりました。また、感染予防については、マスクの着用、手洗いの励行、三蜜の回避などの徹底が叫ばれ、感染拡大を食い止めるための啓発や要請が行われました。しかし、2021年の年明けに報じられた感染者数の数には驚かされると同時に、人々の心の中に生じた「ゆるみ」や「自分は感染しないから大丈夫だ」と言う「おごり」や「自己中心的な自由の勘違い」が蔓延しつつある状況について危機感を覚えずにはいられませんでした。

また、一方では、差別や偏見、不寛容、自己中心的な言動、倫理の問題が深刻になっています。今こそ、同志社の建学の精神と良心教育の真価が問われていると思えてなりません。このような時世においてこそ、「自由のもとには責任が伴う」と言う同志社の自由の精神について、世の中全体に問いかけ再確認することが必要だと言えそうです。

2019年に同志社大学良心学研究センターから発行された「新島襄 365」の中に新島が残した自由主義に関わる記述があります。

「予は望む。我輩の自由主義は我が国一般の自由を存し、自治の精神を養う『泉』となるべき事を。然るに今査証の情実の便利の為に、他日漸々この自由が絶たれ・・・」

自由とは自治の精神を養う「泉」であると自由の本義を述べながら、現実には、個人的な利害の為に自由が都合よく使われていることを嘆いています。この新島の嘆きは、コロナ禍のなかでの、感染拡大が続き、差別や偏見、不寛容といった倫理の問題が見え隠れする今の状況にも通じるところがあります。だからこそ、新島が唱えた同志社の良心教育の真価が問われるのです。

昨年のLearner 5月号で「困難をもって益へと転ずる」という言葉を取り上げましたが、その道は決して易しいものではありません。一人ひとりの心の持ちようは、強い信念や指針がないと易きに流れてしまいます。自分の欲望や誤った自由の解釈についての警鐘を鳴らしつつ、新島が唱えた自由の考え方、そしてそれらの原点にある考えを良心碑の文面を持って示し、January Issueの締めくくりとします。

「良心之全身ニ充滿シタル丈夫ノ起り来ラン事ヲ」

どうか、皆さん、私たちに与えられている自由を再確認し、この時代の難局を乗り切っていくために、各自が良心とともに、同志社の自由主義の精神を発揮していこうではありませんか。

副校長 城 恵市



キリスト教 教育テーマ 1月：信頼 January: Trust

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」
これは、「神は私たちと共におられる」という意味である。

(聖書協会共同訳 マタイによる福音書 1章 23節)

皆さんはバウムという作家が書いた、「オズの魔法使い」という物語をご存じだと思います。主人公の少女ドロシーは、アメリカのカンザスという大草原に住んでいましたが、ある日激しい竜巻が来て家ごと吹き飛ばされ、見知らぬ国へと運ばれてしまいます。その国で旅をしている最中三人の仲間と出会い、一緒に旅をすることになります。

最初に知り合ったのは麦畑の「かかし」でした。彼は自分の頭が麦わらでできていて脳みそというものがなくて、ぜひ脳みそを手に入れて賢くなりたいと思っていました。次に知り合った「ブリキの木こり」は、自分の体は冷たい金属のブリキでできているから、ぜひとも心を受かって誰かを愛することができるようになりたいと願っていました。最後に仲間になった「ライオン」は、自分は猛獣のくせにどうも臆病者でいけないから、勇気を身に付けたいと考えていました。そしてもちろんドロシー自身は、一刻も早く故郷のカンザスに帰りたいと願っていました。

エメラルドの都に住むオズ大王はすばらしい魔法使いで、どんな望みでも叶えてくれる、という噂を聞いて、彼らはオズに会うためエメラルドの都を目指します。様々な冒険をして、苦勞してやっとのことでオズ大王に会うことができたのですが、何とオズの正体は魔法使いなどではなくて、マジックの上手なただの小父さんだったのです。この人に会いさえすれば自分の望みが全て叶えられると信じ、はるばる旅をしてきた仲間たちは、とてもがっかりしてしまいます。けれどもその時、オズは自分に会いに来た一人一人に、大切なことを気付かせます。それは、「君たちはもう、望むものを持っているよ。」ということでした。

まず「かかし」は、オズに会うまでの旅の途中でたくさんのことを経験し、とても賢くなっていました。また「ブリキの木こり」には、自分が知らずに踏んづけてしまったカブト虫を可哀そうに思い、涙をこぼすような優しさが、かなり前からありました。「ライオン」は、旅の途中で仲間が危険に陥った時、勇敢に戦って彼らを守ってきました。そしてドロシーは、この国に着いた時からずっと履き続けていた靴が、実は簡単に自分の家に帰れる道具だったのです。

このようにドロシーとその仲間たちは、自分が望むものを既に持っているにも拘らず、はるばるオズの魔法を求めて旅をしていたのでした。けれども「もう君たちはそれを持っているよ。」というオズの言葉だけではどうしても満足ができなくて、どうしても何か印になるものが欲しい、とオズにおねだりしました。そこでオズは、一人一人に「印になるもの」をプレゼントします。「かかし」には、もみ殻にピンや針を混ぜてざらざらした物を作り、脳みそとして頭に埋め込みました。「ブリキの木こり」には綺麗な赤い布でハートの縫いぐるみを作って、胸の中にしまい込みました。「ライオン」には勇気が湧いてくる薬として、緑色の飲み物を与えました。

もちろん、彼らが受け取ったプレゼントは皆、本物ではありません。ピンや針は脳みそにはならないし、心は手で縫えるものではないし、勇気は薬を飲んで手に入るものではありません。でも、オズが彼らに与えたプレゼントは皆、それを持っている人が「本物」を持っている印になって、後々まで彼らに希望と勇気を与え続けました。

秋学期の終わりの宗教の授業では、全学年で馬小屋のクラフトを制作しました。イエス様は「神さまの御子、救い主」としてこの世にお生まれになりましたが、生まれた場所は決して立派なお城や綺麗な大きい家ではありませんでした。宿屋は旅をしている人がほんの一時だけ泊まる場所ですが、その宿屋にさえ泊まれずに、イエス様のお母さんは馬小屋で赤ちゃんを産んだのです。神さまの御子が馬小屋で生まれるなんて、考えてみればひどい話ですが、実はこういうことも、神さまの大きなご計画のうちにある大切な出来事でした。なぜかという、もしイエス様が立派なお城のような場所でお生まれになったら、お祝いに来られるのは王様や貴族、つまり王様と同じように綺麗な服を着て高価な贈り物ができる人々だけに限られてしまいます。でも、イエス様が何も無い馬小屋でお生まれになったからこそ、心から救い主のお誕生を喜んだ羊飼いのような人々が、何も持たずにお祝いに駆けつけることができたのです。

12月25日が過ぎたら、日本ではほとんどの場所でクリスマスの飾りは片付けられてしまいます。でも、キリスト教の暦では3人の博士たちが幼子イエスを訪ねたとされる公現日(1月6日)までが、クリスマスです。クリスマスの飾りがあってもなくても、神さまは私たちと共におられます。でも、目の前に何もなかったら思い出すのが難しい、という方は、オズの魔法使いのように、ちょっとした工夫をしてみられては如何でしょう。クリスマスには星のついたツリーと共に、イエス様が誕生された馬小屋も、どこか見えるところに飾っておくのです。そして神さまがどんな時でも私達と一緒にいてくださる方だということを、ご一緒に思い出そうではありませんか。

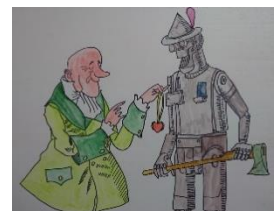
*この記事は、2020年12月4日の校内クリスマス礼拝で行ったメッセージに加筆・修正したものです。

(Christian Education Committee チャブレン 石川眞弓)

1年生児童の作品



オズの魔法使いイラスト



<お知らせ>

・1月のおにぎり献金は、1月12日(火)です。

新型コロナウイルス感染拡大防止に関わる対応について

一人ひとりの覚悟と確実な取り組み

2020年大みそかの日に出生された東京都の感染者数には、大いに驚かされました。初めて1000人を超え、1337人となり、1都3県対象の緊急事態宣言発出へとつながりました。ただし、正月明けの感染者数の拡大は留まるところを知らず、東京都の7日の感染者数は前日を800人以上も上回り、ついに2447人に達しました。また、同日の大阪府の感染者数も607人と過去最多を更新し、大阪・兵庫・京都の2府1県が緊急事態宣言の再発令を要請する流れとなりました。この日、京都府では143名、奈良県では26名の感染者数が確認されました。もはやコロナウイルスは私たちのすぐ近くまで忍び寄ってきており、いつだれが感染する分からないところまできています。

教育現場において、文部科学省からは、一斉休校は社会活動全体を休止させるような情勢にならない限り実施しないと明言しており、たとえ感染者が校内から出たとしても学校全体を休校にする必要はなく、保健所と相談の上対応するようとの伝達が出されています。我々も新しい対応マニュアルを作成すべく、議論を重ねているところです。近々には皆様にお伝えいたします。

春の緊急事態宣言では、行動変容が強く求められましたが、今回は飲食関係を中心とした対応のようです。しかし、行政が示すことだけに取り組むのではなく、各自がしっかりと判断し、感染拡大防止に向けて最大限の予防対策を行いたいものです。感染拡大を止めるのは、行政からの指示ではなく、良心に準拠した我々の覚悟を持った行動なのです。

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気が高揚すると同時に注意力が低下する。また、意識がぼんやりし、大きな声になりやすい。
- 特に飲食などで密接されている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、同じ飲み物や箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のほろ酔い酒では、短時間の食事と比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり雑音がしやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、自カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 狭い閉鎖空間やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まる場合がある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。



文科省 HP より

DIA としても、感染拡大防止に取り組む一方、様々な状況を想定して今後に備えて参ります。ご家庭におかれましても引き続き感染予防に努めていただきますようお願いいたします。また、関係者が感染、あるいは濃厚接触者となった場合は、早急に学校までご連絡くださいますようお願いいたします。

1月の主な行事・予定

1	金	元旦
2	土	
3	日	
4	月	
5	火	
6	水	
7	木	始業礼拝 (午前授業)
8	金	
9	土	
10	日	
11	月	成人の日
12	火	Unit5 (w5)
13	水	委員会
14	木	G4G5 推薦進学説明会
15	金	避難訓練 G135 引き渡し訓練
16	土	新1年生刈エントーション (動画配信~29日)
17	日	
18	月	Buffer Week
19	火	
20	水	クラブ活動
21	木	
22	金	
23	土	
24	日	
25	月	Unit6 (w1)
26	火	
27	水	
28	木	G6 Exhibition
29	金	G6 Exhibition
30	土	
31	日	



G6 の Exhibition につきましましては、DIA 関係者のみの公開とし、外部の皆さんへは Web 配信を計画中です。

【14日の4・5年生対象の推薦進学説明会について】

11:00より5年生対象の説明会、13:00からは4年生対象の説明会をZoomで行います。ミーティングIDについては前日ミマモルメで配信いたします。

【15日の児童引き渡し訓練(135年生対象)について】

12月2日アップの文書で詳細を再度ご確認ください。

*今後の情勢により各予定が変更する場合があります。